

幸徳小 学校だより  
**ほうとくの風**

令和7年度 第6号  
小田原市立報徳小学校  
校長 濱戸 由里子

《学校教育目標》 **心豊かに 自分らしく生き抜く 子どもの育成**

<http://www.ed.city.odawara.kanagawa.jp/kids/shougaku/houtoku/index.htm>



学校HP 二次元コード

## 2026年がスタートし 今年度も、まとめの時期になりました

今年度も残りわずかとなっていました。朝会や、委員会の集会、各学級の授業での取組、子どもたちのあいさつなどなど、子どもたちの様々な姿に、一年間の成長を感じる今日この頃です。

厳しい寒さの中でも、登下校を見守ってくださっている方をはじめ、各種ボランティア、PTA活動のために学校へお越しくださっている方々、そしてすべての保護者や地域の皆様、日々子どもたちを見守り支えていただき本当にありがとうございます。そして今年もどうぞよろしくお願ひします。まだまだ、寒い日が続きますが、お体には気をつけてお過ごしください。

毎年、校地内に咲くかわいい水仙の花を、校務用員の庄司さんと松田さんが校舎内のあちこちに飾ってくださいます。どこからともなく漂ってくる水仙の香りに、寒い中でも着実に春が近づいてきていることを実感しています。

これから3月に向けて、学校では6年生を送り出す準備が始まっています。1月22日(木)の代表委員会では、5年生の事務局が中心となり、初めて参加した2年生も含めて「6年生ありがとう週間」についての話し合いが行われました。どの学年からも、6年生への感謝の気持ちや、互いの学年を思いやる意見が述べられ温かい気持ちになりました。また、相手の顔を見て意見を伝えたり、うなづき、反応したりするなど話の聞き方も素晴らしいかったです。

私たち教職員も、年度末に向けて頑張る子どもたちの成長を笑顔で見守り励ましていきたいと思っています。



# みんなちがって みんないい ～インクルーシブ教育～

11月末に保護者の皆様にお願いをした、学校教育活動に関するアンケートへのご協力ありがとうございました。今年度も最後の項目に、本校のグランドデザインでも取組の重点としてあげている「インクルーシブ教育」について質問をさせていただきました。「学校は共生社会の実現に向け、違いを認め合い、共に学び育つ教育を推進している（インクルーシブ教育の推進、交流学習の推進）」という内容ですが、今年度は9割以上の方が肯定的な回答をしてください、昨年度に比べても3ポイント上昇することができました。本校での取組へのご理解とご協力にたいへん感謝しております。

さて、小田原市では、支援教育の理念（障がいの有無にかかわらず、様々な課題を抱えた子どもたち一人ひとりのニーズに、適切に対応していくことを「学校教育」の根幹に据えた教育のこと）のもと、共生社会の実現に向け、できるだけ多様な子どもが同じ場で学び合い、ともに育つことを基本的な考え方としてインクルーシブ教育を推進しています。

本校もその実現に向けて、子どもたちが相互に理解し合いながら社会性を養うことができ、また子どもたちの「人格と個性を尊重し支え合う力」や「互いの良さや多様性を認め、協働する力」を育むことにつなげようと様々な取り組みを工夫し、実践に努めています。

児童に対しては、今年度もパワーポイントを活用した朝会「ほんの少しのやさしさで」を実施しています。また、保護者の皆様に向けては、春と秋の懇談会の中で、資料を活用したり、パワーポイントを使い実際の取組の様子を紹介したりしながら、「インクルーシブ教育」についてお伝えをしてきました。

誰にでも得意なこと苦手なことがあります。ほんの少しの優しさや工夫があれば、みんなで一緒に楽しく学校生活を送ることができるのでないでしょうか。

これからも保護者や地域の皆様のご協力とご理解をいただきながら、本校のインクルーシブ教育を進めていきたいと思っています。

